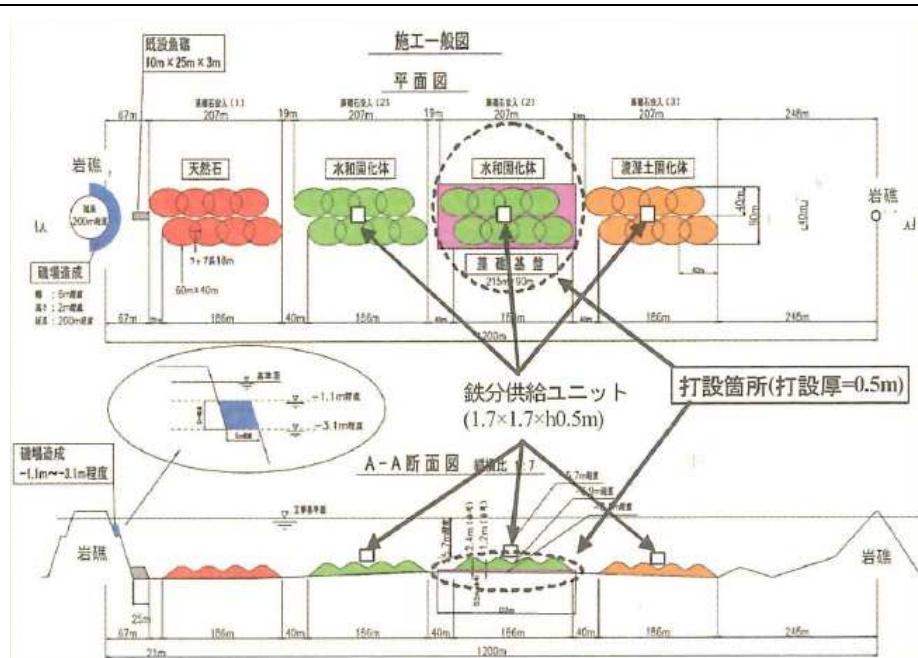


## 浚渫土処理・有効活用技術

技術分類	分級・安定処理・有害物質除去・その他
技術の名称	浚渫土人工石
実用化の状況	技術開発中・実証試験中・実用化済み
技術の概要	<p>浚渫土・製鋼スラグ・高炉スラグ微粉末等を混合し、魚礁・藻礁、潜堤材、捨石マウンド材、護岸の裏込材等に利用する技術。</p> <p>ミキサやバックホウを用いて各材量を混合した後、型枠に打設し、必要に応じて解砕したものを人工石として使用する。</p> <div style="text-align: center;"> <p>適用場所例</p> </div>
特長・メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浚渫土を有効活用して準硬石相当（9.8N/mm<sup>2</sup>以上）の強度発現が可能。</li> <li>・任意のサイズの人工石が作成可能。</li> <li>・配合により、強度増加や軽量化が可能。</li> </ul>
留意点・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配合試験を行い、目標強度を達成する配合を選定する必要がある</li> <li>・浚渫土の使用量は、浚渫土人工石の体積比で40%程度であり、カルシア改質土の70%程度と比較して少なくなる。</li> </ul>
特許等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特許 5712668 固化体の製造方法、特許 5853399 人工石材およびその製造方法、特許 5799585 人工石材の製造方法 等</li> </ul>
関連する資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保田沖海域におけるカルシア系改質材の適用例～藻礁石基盤材としての適用～（第7回地盤工学会関東支部発表会発表講演集, pp. 78-81, 2010.）</li> <li>・浚渫土人工石の材料特性と製造技術（土木学会論文集 B3（海洋開発），71 巻（2015）2 号）</li> </ul> <p><a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejoe/71/2/71_I_1173/_pdf/-char/ja">https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejoe/71/2/71_I_1173/_pdf/-char/ja</a></p>
適用実績（事例）の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藻場造成事例（東京湾保田）</li> <li>数量：1300m<sup>3</sup>×8回投入</li> <li>内容：浚渫土混合人工石による藻礁築造</li> </ul>



・港湾での施工事例（愛知県 名古屋製鐵所）



ミキサ混合



型枠への打設



ブレイカーでの解砕



浚渫土人工石

問い合わせ先

新日鐵住金株式会社（カルシア改質土研究会代表）  
スラグ・セメント事業推進部市場開拓室  
〒100-8071 東京都千代田区丸の内 2-6-1 丸の内パークビルディング  
TEL : 03-6867-4111（代表）  
mail : akashi.n9t.yuzoh@jp.nssmc.com